



## 巻頭言



公益社団法人日本分析化学会 北海道支部支部長

坂入 正敏 (北海道大学)

今年は6月から暑い日が続いておりますが、皆様、熱中症などにならずに元気でお過ごしでしょうか。昨年度支部長を拝命して、瞬間に1年半が過ぎようとしています。支部事務局も同時に変わったため、以前のように適切かつ迅速な対応ができておらず、支部会員の皆様にはご迷惑をお掛けしております。支部長と同時に本部の理事も拝命していますので、支部と本部の状況を支部ニュースの巻頭言として述べさせていただきます。

この原稿を執筆している時には、主催事業である緑陰セミナー(7月20日と21日)と共催事業である日本化学会北海道支部2025年夏季研究発表会(7月19日)は終了しています。緑陰セミナーは、講演とポスター発表だけでなく、新たな試みも実施されました。詳細な報告が、ご担当の室蘭工業大学高瀬先生からあると思います。本支部が共催している日本化学会北海道支部の夏季研究発表会は苫小牧工業高等専門学校で開催されました。苫小牧も例年以上の暑さで、実行委員会(本支部の担当は奥田先生)の皆様は、暑さ対策に苦慮されておりました。発表件数は例年より少なく、分析化学に関する発表はほとんど無かったのが残念でした。幸い特別講演が、南極観測に関する内容でしたので、暑さを忘れることができました。こちらの詳細についても、奥田先生よりご報告頂けることになっています。来年度は、函館工業高等専門学校で7月中旬に開催予定とのことですので、本支部の皆様

と函館でお会いできることを祈念しています。

本支部が担当となる日本分析化学会第74年会(実行委員長:渡慶次 学先生)とASIANALYSIS XVII 2025(実行委員長:小澤 岳昌先生)が、9月24日から9月26日に北海道大学工学部で開催されます。年会には、高校生のポスターセッションも企画されています。多くの講演申込みを頂き、7月中旬にプログラム編集も終え、渡慶次実行委員長のもと着々と準備が進んでいます。年会がこれまでに以上に盛会になりますように、支部の皆様のご参加をお願いします。また、実行委員になられている皆様には、運営へのご協力をお願い致します。

話題を支部関係から本部関係に変えたいと思います。昨年度から理事としてWEBで開催の理事会に参加していますので、理事会でどのようなことが議論されているかについて、特にお金と会員数に関して述べさせていただきます。最近の出来事として、年会費の値上げが皆様に届いていると思います。コロナ禍以降、全てのものが値上がりしているので、値上げに鈍感になっているとはいえ、年会費を何故値上げするのかと思われたのではないのでしょうか。日本分析化学会は、記憶によればこの10年ほど、会員減少などによる収入減のため資金繰りに苦慮していました。この数年は大分改善していますが、理事会の重要な議題として、資産状況、どのように資産を運用して利益を得るかがあがります。会員数は、正会員2757と学生会員533、ジュニア

会員 14、維持会員 174.5、特別維持会員 469、公益 284、名誉会員など 533 の 4764.5 となっています。コロナ禍前の 2019 年 2 月時点では 5635.5 でしたので、この 6 年で約 2 割の減少で、シニア会員が 108 増加している状況です。このような状況で、本部事務局が中心となり各支部も歳出を抑えるなどにより前述しましたように、資金状況は改善しています。しかし、今後の会員数の変化や物価の高騰のため、資金面で安心できる状況ではありません。将来も日本分析化学会の活動を維持するために、7 月の理事会において苦渋の選択として年会費を値上げさせて頂くことになりました。本会の年会費は、他の学協会が値上げしている中で、数十年値上げしていないため、物価上昇を考慮すると避けられない状況であったのも事実です。年会費値上げは、支部活動にとっても良い面があります。今回の値上げにより、これまで抑えられていた本部から支部への配分額が増額されます。現在、約 70

万円が約 100 万円になる予定です。これ以外にも、ホームページの更新を行い、会員サービスも改善することになっています。年会費の改定についてご理解頂ければ幸いです。

話題を表彰に変えたいと思います。日本分析化学会の賞として、学会賞や奨励賞、技術功労賞、学会功労賞、先端分析技術賞、女性 Analyst 賞があり、支部から推薦させて頂いています。自薦・他薦を問いませんので奮って応募してください。本部への推薦締め切りは 2026 年 1 月末ですので、余裕をもって支部長までご連絡頂ければ幸いです。また、北海道支部独自の表彰もあります、こちらも自薦・他薦問いませんので、9 月中旬をめぐりにご連絡をお願いします。

最後に、今年度もこれまでの支部長や支部事務局のように、適切かつ迅速な対応はできないと思いますが、これからの支部活動に皆様のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

(さかいり・まさとし)

## これからの行事予定

### 2025 年 北海道地区化学教育研究協議会

- 主催** 日本分析化学会北海道支部、日本化学会北海道支部、日本化学会教育・普及部門
- 後援** 北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道高等学校長協会、北海道小学校理科研究会、北海道中学校理科教育研究会、北海道高等学校理科研究会、北海道教育大学（依頼予定含む）
- 会期** 2025年11月15日（土） 10：00～16：30（予定）
- 会場** 北海道教育大学札幌駅前サテライト（札幌市中央区北5条西5丁目7 sapporo55 4階）での対面形式及びZoomによるハイブリッド開催
- 参加申込締切** 10月27日（月） 定員 80名
- 内容** 「教員養成の現場から見る小中高化学分野の系統性と求められる資質」宮城教育大学 猿渡英之先生  
提言：「理科(化学)教育における小・中・高・大学での取り組み」を4件ほど予定（提言20分、質疑応答5分程度）  
自由討論：「小・中・高・大学での研究実践と課題に関する討論」（1時間程度）
- 対象** 小学校から大学までの教員、化学教育に関心のある大学(院)生
- 参加費** 無 料
- 懇親会費**（希望者） 4,000円（五修堂 札幌市中央区南1条東2丁目）（金額、会場ともに予定）

**参加申込方法** 電子メールかGoogleフォームで申し込みください。名簿作成の関係で10月27日（月）締切としますが、協議会につきましては「当日参加」も可能です。

Googleフォーム：<https://forms.gle/daCP7aCv2b5G1Pgo8>



**連絡先** 〒060-8628札幌市北区北13条西8丁目 北海道大学大学院 工学研究院材料科学部門  
坂入 正敏  
TEL: 011-706-7111  
Email : msakairi@eng.hokudai.ac.jp

(北海道大学大学院工学研究院・谷博文)

## 2025年 公開セミナー

今年度のセミナーは、2025年12月23日（火）に対面およびオンラインのハイブリッド形式で実施する予定です。講師に北海道大学大学院情報科学研究院の竹井邦晴先生をお迎えし、フレキシブルセンサを中心とした「柔らかく多種多様な信号計測が可能なマルチモーダルセンサシート」という題目でお話しいたできます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

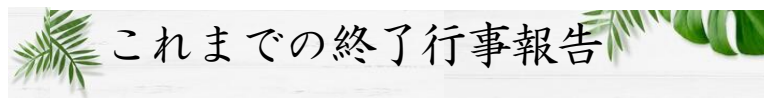
日時：2025年12月23日 10時30分～12時

場所：北海道大学札幌キャンパス（工学部）材料化学棟 MC030（予定）

内容：「柔らかく多種多様な信号計測が可能なマルチモーダルセンサシート」

北海道大学大学院情報科学研究院 教授 竹井 邦晴 先生

(北海道大学大学院工学研究院・真栄城正寿)



## 第60回 氷雪セミナー

日本分析化学会北海道支部主催による「第60回氷雪セミナー」が、2025年1月12日（日）に開催されました。今回は特定のテーマを設けず、異なる研究分野から3件の講演が行われ、17名が参加しました。分野の垣根を越えた活発な意見交換が行われ、有意義な時間となりました。



氷雪セミナーは、例年、降雪や積雪によって交通の便が悪化する時期に開催されます。第60回は、こうした事情を踏まえた新たな試みとして、Zoomを用いたオンライン形式で実施しました。また、近年は物価の上昇や観光客の増加により、対面会場の確保が一層困難になっています。こうした背景に加え、遠方からの参加が難しい会員や学生への配慮として、今回は参加費を無料とし、会員増強の契機とすることも目的としました。

セミナーでは、以下のプログラムに基づき、各講師の方々に質疑応答を含め30分程度のご講演をいただきました。専門分野を超えた活発な意見交換が行われ、充実した時間となりました。

### 【プログラム】

1. 田中 久暁 先生(公立千歳科学技術大学准教授)  
「有機トランジスタにおけるキャリアの電子スピン共鳴観測－電子状態と電荷輸送の微視的解明」
2. 甲野 裕之 先生(苫小牧工業高等専門学校教授)  
「キチンオリゴ糖が作る新規なキチンナノファイバーの話」
3. 赤澤 敏之 先生(北海道立総合研究機構産業技術環境研究本部工業試験場道総研フェロー)  
「総合知による生体模倣バイオマテリアルの創成と臨床展望」

オンライン形式には、移動の負担がなく参加しやすいことや、運営コストを抑えられるといった利点があります。その一方で、対面時に自然に生まれる懇親や交流の機会が持てなかった点は、今後の課題として残りました。オンライン開催を継続する場合は、全体ディスカッションやオンライン懇親会の導入など、交流を促す工夫も検討する必要があるでしょう。あわせて、休日ではなく平日の夕方に開催するなど、より参加しやすい時間帯の設定についても意見が寄せられました。次回の氷雪セミナーが対面形式になるかオンライン形式になるかは、新たな開催担当者の判断によることとなります。いずれの形式であっても、引き続き充実したセミナーとなることを期待しています。

(公立千歳科学技術大学・木村-須田廣美)

## 化学系学協会北海道支部 2025 年冬季研究発表会

化学系学協会北海道支部2025年冬季研究発表会(共催:電気化学会・日本分析化学会・日本化学会・触媒学会・表面技術協会・石油学会各北海道支部)は、青木芳尚先生(北大工学研究院)を実行委員長として、2025年1月21日(火)～22日(水)の期間、北海道大学学術交流会館で開催されました。今回、特別講演は1件「全固体電池材料のリチウムイオン拡散:NMRとSIMSでイオンの動きを明らかにする」桑田直明先生(物質・材料研究機構)、口頭発表は59件、ポスターは63件の発表が行われ、のべ309人の参加者が集まりました。

口頭発表は、10分の発表時間と4分の討論時間で行われ、活発な質疑応答が行われました。審査員の評価により、最優秀講演賞1件と優秀講演賞4件が表彰されました。また、ポスター発表は、例年と異なり2日目の午前中に行われ、こちらも活発な質疑応答が行われました。冊子体の要旨集の代わりにQRコードが各ポスターに掲示されており、スマートフォンなどで要旨が確認できるのが画期的でした。こちらも審査員の評価により、最優秀講演賞2件と優秀講演賞3件が表彰されました。懇親会は、1日目の夜に、彩屋札幌店(札幌市中央区北4条西5丁目 アスティ45 B1)で、桑田先生を交え18名で開催され、研究等の話が弾みました。上記の優秀講演賞の表彰式は、後日1月31日(金)12:30からオンラインで開催され、優れた研究成果に対する表彰が行われました。

今回は、発表申込期間の延長が行われず、申込ができなかったケースがあったようですが、運営を担う関係者の負担を軽減するためご理解を願えればと存じます。一方、学会運営エンジン meddle の利用や運営の工夫などにより、会場費の高騰や経費削減に対応する実行委員の努力が垣間見えました。今回頂いたアンケートのご意見も踏まえ、よりよい研究発表会にしていきたいと思っております。

次回、化学系学協会北海道支部2026年冬季研究発表会も北海道大学学術交流会館で2026年1月20日(火)～21日(水)の期間開催の予定です。メールなどで周知する予定ですが、ホームページをご覧の上1件でも多くの研究発表をお待ちしております。

(北海道大学大学院地球環境科学研究院・山田幸司)

## 2025 年 夏季研究発表会

日本化学会北海道支部主催、日本分析化学会北海道支部ほか共催の、2025 年夏季研究発表会を、7 月 19 日(土)に苫小牧工業高等専門学校で実施しました。

一般講演は 53 件と例年より少なめでしたが、当日受付含め参加者は 114 名でそれなりに盛況でありました。特別講演は、苫小牧工業高等専門学校創造工学科岩波俊介先生による「極限の地で挑む化学: 第 65 次南極地域観測隊の記録」と、日本化学会会長・京都大学大学院薬学系研究科丸岡啓二先生による「有機触媒化学の最前線」の 2 件でした。これからの化学者をいかに育てていくか、というお話もあり、活発な質疑が行われていました。

とても蒸し暑い中、ご参加いただいた皆様にお礼を申し上げます。来年の発表会は函館での開催を予定しております。多くのご参加をお待ち申し上げます。

(苫小牧工業高等専門学校・奥田弥生)

## 第 41 回 分析化学緑陰セミナー



第 41 回分析化学会緑陰セミナーが、2025 年 7 月 20 日(日)、21 日(月・祝)に沼田町のほろしん温泉ほたる館で開催されました。昨年度に引き続き、本年度も人数制限をしないオンサイト開催となりました。

今年度は、できるだけ幅広い分野と視点から分析化学を考えてもらうとともに、学生、若手研究者の今後の研究活動や生きていく中で何かを残そうと、オンサイトにて 3 件、オンラインにて 1 件の招待講演となりました。学生によるポスター発表は 16 件となりポスターアブストラクトをグラフィカルアブストラクト(GA)として、イメージを伝えることにも挑戦してもらいました。

当日、受付が始まるとホテルが準備して下さったバスに乗って続々と到着されるみなさん…わけもわからないままに名札と番号を渡され、会場内の掲示にその名札を貼ると…まさかのグループワークのグループが決定しました。今年度は、招待講演、ポスターにくわえて、交流、情報交換としてグループワークを設定しました。ばたばたと準備がなされ、支部長の開会宣言ならびに研究室紹介から緑陰セミナーがスタートしました。

1 件目の招待講演では、北海道大学の板谷昌輝先生より「水のポラリトン状態の分光評価と物性制御への転換」との演題でご講演をいただきました。今まさに始まった！と言わんばかりの熱

量あふれるお話に学生も若手研究者も、真剣な眼差しで聴いておられるのが印象的でした。2 件目は、北見工業大学の天津直史先生による「レーザー誘起プラズマの利活用ー金属表面処理から土壌分析までー」との演題でのご講演となりました。大学、研究と社会とのつながりを意識できる非常に興味深いお話が多く、ですが折りに触れて見える天津先生の実直さに研究者としての凄さを感じる時間となりました。そして、3 件目は初日最後のご講演として、旭川工業高等専門学校の兵野篤先生による「微粒子分散系と表面化学に関する諸研究」との演題でのご講演となりました。タイトルを固くつけすぎてしまったかも、とご本人はおっしゃっておられましたが、ご自身の体験や時代と今の学生たちを取り巻く環境を研究とつなぎながら、ときには笑いも入れつつもことんやるという心意気を感じられました。3 件の招待講演、いずれも時間が過ぎるのが早く少々物足りないと感じた方もおられるのではないかと思います。

会場がしっかり暖まったところで、グループワ

ークの開催となり。アイスブレイクのグループ対抗なぞなぞ大会から(世話人が思うよりも盛り上がり、参加者の頭の柔らかさを思い知らされました笑)はじまり、今回のグループワークのお題発表！「次回緑陰セミナーをプロデュースする」ということで、グループごと、参加者が満足し学びの多い会をどのように企画するか、ということに挑戦してもらいました。この時間だけでは足りないため、翌朝までに内容を提出となりましたが、夕食から交流会に至るまで寝る間も惜しんで温泉を楽しみつつ、グループごとに議論をしていたことが印象的でした。虫も星空も楽しむことができました。2日目は、4件目の招待講演として鹿児島大学の満塩勝先生(鹿児島大学)による「SPR センサーの研究を通じた研究の立ち上げと発展」という演題でご講演をいただきました。日程の都合上、オ

ンラインとなってしまったことが大変残念ですが。プロフェッショナルを感じる研究、ご講演は大変ありがたいお話でした。

GA コンテスト最多得点&最優秀ポスター賞は、橘田香さん(北見工大)、優秀ポスター賞には佐藤友泰さん(旭川高専)となりました。参加者全員に同じく審査いただき大変ありがとうございました。お二人は本当におめでとうございました。お二人は本当におめでとうございました！表彰とともに閉会となりましたが、世話人として至らぬ点も多い中、参加者の皆様にはたくさんの方の激励をいただき世話人ながら一番楽しんでいたようにも思います。本当にありがとうございました。今年度予定があわず参加を見送られた皆様もぜひ、次回ご参加くださいますようよろしくお願い申し上げます。

(室蘭工業大学・高瀬舞)

## 2025 年度 支部役員

支部長	坂入正敏(北海道大学)
副支部長	南 尚嗣(北見工業大学) 木村・須田廣美(公立千歳科学技術大学)
庶務幹事	佐藤 久(北海道大学) 谷 博文(北海道教育大学)
会計幹事	山田幸司(北海道大学) 真栄城正寿(北海道大学)
監事	渡慶次 学(北海道大学) 蠣崎悌司(北海道教育大学)

ほかに、参与 11 名・幹事 40 名

## 2025 年度 北海道支部事業計画

開催日	事業名	担当	開催地
4 月下旬	第 1 回支部幹事会（オンライン）	支部長	札幌
7 月 20-21 日	第 41 回分析化学緑陰セミナー	高瀬 舞	沼田町
同上	若手交流事業 九州支部若手の会の招聘	今枝佳祐 中屋佑紀	WEB
7 月 19 日	2025 年夏季研究発表会	奥田弥生	苫小牧
7 月下旬	2025 年支部役員候補者選考委員選挙	支部長	
	支部ニュース第 71 号*	青柳直樹 大塚 侑	
9 月下旬	2025 年度支部役員候補者選考委員会	支部長	
10 月上旬	第 2 回幹事会（オンライン）	支部長	札幌
10 月上旬	2026 年度学会賞等候補者推薦及び 2025 年度北海道分析化学各賞選考委員会	支部長	札幌
11 月上旬	北海道地区化学教育研究協議会	谷 博文	札幌
11 月予定	2025 年公開セミナー	真栄城正寿	札幌
12 月中旬	支部ニュース第 72 号	青柳直樹 大塚 侑	
1 月上旬	第 61 回氷雪セミナー	大津直史	未定
1 月中旬	化学系学協会北海道支部 2026 年冬季研究発表会	山田幸司 諸角達也	札幌
2 月下旬	2025 年北海道分析化学賞授賞式	支部長	札幌
2 月下旬	審議会（第 3 回幹事会）ハイブリッド	支部長	札幌

\*支部ニュース 71 号は不備により例年より遅れての発送となりました。

## 2024 年度 会計報告の概要

収入	単位 (円)	支出	単位 (円)
支部費	750,000	臨時雇賃金	240,000
印税収入	12,012	旅費交通費	84,400
受取利息	1,456	会議費	0
収入合計(A)	763,468	通信運搬費	34,986
当期収支差額(A-B)	△249,446	消耗品費	12,462
		印刷製本費	39,446
		支払負担金	26,000
		支払助成金	270,000
		内部支払助成金	282,630
		表彰費	19,800
		雑費	550
		支出合計(B)	1,012,914

## 支部会員の欄

この欄では分析化学会北海道支部の転入や転出、新入会など会員に関する情報をお伝えします。次の方々の入会が理事会で認められたほか、転入及び退会の情報をお寄せいただきました。会員に関する情報をお持ちの方は、支部ニュース編集委員までお知らせください。

【新入会のみなさん】 ○正会員 0 名 学生会員 2 名 (入会順・敬称略)

正会員：

学生会員：大向 理子 北海道大学工学部  
藤井 優祐 北海道大学総合化学院

## 編集後記



今年の北海道は記録的な猛暑が続いています。昨年も暑さに悩まされた記憶がありますが、年々その度合いを増している感があります。こうした極端な気象を前にしても、遠い海の向こうの国では、気候変動の科学的根拠を意図的に無視した政策が推進されているようです。科学的データが“都合の悪い真実”として扱われる時代において、私たち分析化学関係者の役割は、より重要になっていることを実感する日々です。

さて、支部ニュース第71号の発行は予定から1か月以上遅れましたことをお詫び申し上げます。各記事をご担当いただいた諸先生方には、短い

執筆期限を押しつけられたにも関わらず、快くご協力いただきましたこと誠に感謝申し上げます。本号から、青柳直樹(北海道立衛生研究所、再任)と大塚侑(同研究所、新任)の道衛研所属の二人体制で編集を行なっています。今年は北大にて年會が開催され、北海道支部会員のみなさまの御活躍が期待されているところです。我々も支部ニュースを通じて少しでも支部活動に貢献できますよう尽力する所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻をいただけますようよろしくお願い致します。

(編集委員：青柳直樹・大塚侑)

公益社団法人 日本分析化学会北海道支部事務局

札幌市北区北13条西8丁目1

北海道大学大学院工学研究院内 支部長 坂入正敏

TEL 011-706-7111

E-mail [jsac-hb@w9.dion.ne.jp](mailto:jsac-hb@w9.dion.ne.jp)

URL <http://www.jsac.or.jp/~hokkaido/index.html>

北海道支部ニュース 第71号

編集・発行

公益社団法人

日本分析化学会北海道支部

発行日

2025年9月4日